

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年3月1日

学) 清瀬学園 きよせ幼稚園

## 1. 本園の教育目標

強く＝健康でたくましい心と身体の子＝最後までやりぬく体力・気力＝忍耐力

正しく＝正しく話し、正しく行動できる子＝人と上手にコミュニケーションをとる＝社会性

美しく＝おもいやりのある美しい心の子＝気持ちをうまくコントロールする＝感情コントロール

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

令和3年度より本格的に取り組み始めた保育内容の見直しから3年目となるので、柔軟に取り組みなながらも、これまでの反省を年度内に整理し、来年度に向けた計画に盛り込んでいく。

在園児の一時預かり保育の需要は、一時預かり事業幼稚園型の事業を利用し、応えているところだが、未就園児の一時預かりや卒園児の学童という視点では、まだ需要に応えることが出来る園内のシステムがないので、早期に構築していく。年々異常気象が続く中、体験や施設環境を通して、環境問題に興味を持ってもらえるようなことを企画していきたい。また、地域の子育て支援の中心的な役割を果たすため、広く開放した子育て支援企画も多く実施していきたい。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況（令和5年11月1日現在状況）

	評価項目	評価	取り組み状況
1	きつつフル教材の活用	C	日ごろから、はさみと同じ道具としてタブレットを配置している。自由遊びの時間でも、ブロックやままごとと同列のものとしてタブレットを活用し、きつつフルの教材を提供している。
2	安全管理	A	8月にバスの安全確認装置「かくにんくん」の設置、9月に遮熱塗料「ウェブカット」の塗布を行い、運用が始まっている。
3	保育の可視化	A	「My おうちえん」を利用し保育の可視化に本格的に取り組む始めてから3年目となる。今年度は、これまでの反省をまとめ、今後どのように取り組んでいくのか、検討する時期となっている。
4	一時預かり事業の充実	A	一時預かり事業の在園児以外の部分として、一般型の受託を得て、6月より実視している。出来る範囲での預かりとなっているが、需要もあり、定期利用のご家庭もいる。
5	体験や環境を通した環境問題への意識づけ	A	地球温暖化や海洋問題が大きな問題となる中、体験や環境を通して、環境問題への興味関心を持つきっかけを創出するため、移動水族館や常設のアクアリウムの設置を通して、海の生き物に触れる機会を作る。アクアリウムには魚の図鑑や海洋問題の絵本も設置し、知的好奇心を刺激出来るように工夫する。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

## 4. 総合的な評価結果（令和6年3月実施予定）

評価	理由
A	きつつフル教材の活用については、日ごろから子どもたちが自主的に使用できる教材となっているが、逆に一斉保育での活用頻度が比較的に少ないかと思われることからの評価となる。安全管理、保育の可視化、一時預かり事業の充実、体験や環境を通した環境問題への意識づけについては、それぞれ、予定通りの機材の設置、課題への対応、園内保護者ニーズへの対応、計画通りのイベント・機材の設置と、成果があがった。この成果を来年度以降、継続し、浮き彫りとなっている課題へしっかりと対応していきたい。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

## 5. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	組織体制作り	理事長・園長が交代となり、初年度となる。これまでの流れを受け継ぎながらも、教育の質の向上、子育て支援の向上へ取り組んでいける組織づくりをしていく。
2	きつつフル教材の活用	日ごろから子どもたちが自主的に使用できる教材となっているが、逆に一斉保育での活用頻度が比較的少ないかと思われることから、年間計画に落とし込み、一斉保育の中でも一つの道具としての活用を促していく。
3	保育の可視化	現在運用しているドキュメンテーションの方法より、より本来のドキュメンテーションとして保護者と共有していけるように園全体での共通理解をしていく。
4	0・1・2歳児保育の充実	一時預かり事業一般型・多様な他者とのつながり創出事業での、0・1・2歳児を持つご家庭の支援の強化を行っていく
5	学童保育計画	令和7年度開校を目指し、本格的に始動を始める。

## 6. 学校関係者評価委員会の評価

ICT教材の利用頻度については、日常より子どもたちの遊ぶツールとしては定着しているが、保育の中での利用頻度や利用内容については、まだまだ課題を残している。令和6年度において、全体計画の中に落とし込み、具体的なイメージを持って、一斉保育の中でも利用する教材（道具）としてもらいたい。

安全管理については、安全確認装置の設置や遮熱塗料の塗布により、効果があがっているが、まずはマニュアルに沿って、日ごろからの確実な確認を行ってってもらいたい。

一時預かり事業一般型の実施は、1日の利用者が定員の6名となる日も、年度末が近づくにつれて多くなったので、認知が進んできたのではないかと感じる。職員体制により、定員まで預かれなかったり、保育が出来ない日もあったが、園内における潜在的なニーズは低くないことがわかった。来年度も、出来る限りの保育を提供し、子育て支援を行ってってもらいたい。

地球温暖化や海洋プラスチック問題へ意識づけに、移動水族館イベントの実施や常設のアクアリウムの設置、図鑑や絵本を利用したことは面白い取り組みだと感じた。人が多く通る場所に設置したおかげで立ち寄りご家庭も多く、子どもたちも喜んでいる姿がある。興味関心へとつながることへ期待する。

### ■ 移動水族館・常設アクアリウムの実施報告

- ・ おうちえん QRコード



- ・ 公式Instagram記事（ホームページ連動）

2023年9月30日    2023年11月25日    2024年1月14日    2024年1月15日

